

## 10. Gakuvo Style Fund

(育成・支援プログラム)



## Gakuvo Style Fund この一年

Gakuvo Style Fundは、旧ソニーマーケティング学生ボランティアファンドを引き継ぐ支援事業である。2014年度より日本財団学生ボランティアセンター（以下 Gakuvo）が助成資金を提供し、審査会や報告会の企画運営を担当。本学ボランティアセンターは助成団体の事務局として運営のサポートを担当している。（引き継ぎの経緯はボランティアセンター報告書第11号83ページに掲載）

栄えある第1回助成を受けた45団体は、すでに一部団体を除き、助成金を活用しての活動は終結している。各助成団体はGakuvoウェブサイト上に作成された活動報告ページにて逐次活動状況をアップした。2015年5月17日（日）に日本財団本部で開催された活動報告会では、こまめに活動報告ページ更新をおこなっていた3団体に各15分のプレゼンテーションを依頼した。3団体はパワーポイントで解説するだけでなく、地元産野菜で作ったケーキの配布や活動地域とスカイプでつなぎ、現地の生の声をレポートするなど工夫を凝らした発表をおこない、それまで緊張気味であった参加者から笑顔が生まれるという副産物を生み、我々の期待に見事に応えてくれた。スカイプでは事前打合せ時には双方きれいな声で会話できたが、本番では声も画面もしばしば途切れてしまった。しかしこれもスカイプの特徴のひとつと言え、むしろ臨場感たっぷりのレポートになるとともに、学生は臨機応変にカバーして乗り切った。

活動報告会開催後は間髪をおかずに第2回助成団体の受け入れ態勢を整えた。6月には応募を受け付け、一時審査を通過した「こらぼ（他団体と協働するプログラム）」「ばかぼ（地域の課題解決にディープに活動するプログラム）」の団体は2015年7月26日（日）に開催されたプレゼン審査会において90秒のプレゼンテーションで最後のPRをおこなった。1団体のプレゼンが終わると、すかさず会場の他団体メンバーに無作為でマイクを向け、感想を述べさせた。他団体のプレゼンの時も緊張感を持ってプレゼンを聞く学生を見て、この方法は、ボランティアセンター主催行事でも活用したいと感じた。わずか90秒ではあるが、されど90秒でもあり、このプレゼンテーションで審査員に大きな印象を植え付けた団体の存在が印象に残っている。プレゼン審査会を経て、書類審査のみで選考する「ゆるぼ（初めて活動をおこなうプログラム）」を含め41団体が助成団体として採択された。

すでに指定された活動期間としては終盤を迎えており、2016年2月5日現在では5つの助成団体が活動報告を提出。早々に活動を終え、報告書類をまとめるための時間に余裕のある団体はPRすべきポイントをしっかり抑えた報告を提出している。その一方で、さまざまな事情で計画変更、計画を実行できなくなった団体も散見され、申請時の見極めの難しさも感じる。

第2回助成団体に対しても活動の様子はウェブサイトで報告することを義務付けている。この報告は誰でも閲覧することができるが、プレゼン審査会で知り合った団体が相互訪問の様子が報告されるなど、良い空気が生まれている。<http://gakuvo.jp/katsudou2015/>

（職員 波多野洋行）